



子ども大学学生新聞

第20号
子ども大学
かわごえ新聞部

国のお金の使い方をチェック

12月6日 会計検査院の仕事を知る

二〇一四年十二月六日、東京国際大学第一キャンパスの教室で、会計検査院の検査官を務めている小林麻里先生の「国の会計とは」という授業がありました。出席者は四年生二六人、五年生一九人、六年生四二人、保護者五八人、きょうだい八人の計一六三人でした。

最初に先生は、国の会計検査のことを教えてくださいました。会計検査院とは国民の税金の使い道の確認、くわしくいうと、お父さんお母さんが国に納めた税



金か、きちんと、むだなく使われているかどうかをチェックする所です。また、税金のむだ使いを見つけたら、むだなく使えるように、きびしく指摘する所です。このように会計検査院は大事な仕事をする所ということが分かりました。

次に国のお金のことを話されました。国の二〇一四年度の予算は総額九五兆八八二三億円で、そのうち税金は全体の五二・一%を占めているそうです。次に多いのは公債金(国が借りるお金)で、全体の四三%を占めているそうです。

国のお金の使い道は、上下水道、道路公園などの公共施設や、介護サービスなど、いろいろなものに税金が使われています。税金は私たちの暮らしに役に立っていることを教わりました。(小島未来 記者 福原小6年)

国のお金を家計にたよるって

一時間目、小林先生は、国を家計にたとえると、年収五四六万円に対して、年間支出が九五九万円、支出が収入より多いため、毎年、新たに四〇〇万円以上の新規借入れを行っていることにな

り、ふつうの家庭では生活できない状態と教えていただきました。

会計検査院は、国が出したお金が予算どおりに使われているかどうかを調べ、る仕事だそうです。そして、お金をどれだけ収入支出したかを国民に知らせるのも会計検査院の仕事です。

会計検査院は、国のお金の使い道を検査するときに、正確せい、ごうきせい(合規性)きまりにしたがってお金を使っているか、けいさいせい(経済性)、こうりつせい(効率性)、ゆうこうせい(有効性)などを観点として検査をしているそうです。(太田優貴記者 大塚小4年)

小林麻里先生インタビュー

税金に関心を持ってもらいたかった
Q なぜ、このテーマを授業に選んだのですか。

A みんな会計検査院を知らないと思つたし、税金のことに関心をもってもらいたかったからです。

Q 子どものころ、好きだった教科はなんですか。

A 国語と算数かな。

Q 子どものころの夢は何でしたか。

A 外国の政府と日本の政府の橋渡しをする人になりたいと思いました。

Q なぜ、会計検査官になったのですか。

A 会計というところ、みんなは会社の会計と思うけれど、国の会計は国民のための仕事だから意義があると思いいました。

Q 子どもの大学の学生に伝えたいことは?

A なんでもチャレンジしてください。(浅野玲子記者 杉下小6年、佐野寛太記者 高階小6年)

学生の授業感想

大東西小学校4年・小澤瑛さん「会計検査員が3人しかいないことを知りました。面白かったです」

(浅野璃子記者 杉下小6年) 大東西小4年・小川貴彩さん「むずかしかつたけど、税金がどこに行くのかわからなかったのが、分かっておもしろかったです」

☆記者の授業感想

(十重田如菜記者 福原小6年) 河野友里記者 寺尾小5年

会計検査院の仕事は、税金をちゃんと使っているのかをチェックしたり、まちがったお金の使い方を見つけたら、正しい使い方にしてもらったりする仕事ということがわかりました。また、会計検査院は国の税金の使い道をチェックするために、けん法で定められた組織だということもわかりました。今回の授業で、お金のことを学んだので、考えて大切にしようと思いました。

◇深見美空記者 福原小5年
国は約九六兆円のお金を使っていると聞いて、びっくりしました。お金は建築や学校など、たくさんの方に使われて、お金がまわっているのかなと思いました。

日本人の心のふるさとを学ぶ

11月29日 学生が万葉集を歌う

十一月二十九日、尚美学園大学教育棟・北オーデトリウムで「万葉の心 音楽劇」の授業がありました。出席者は四年生二二人、五年生二二人、六年生三〇人の計七十二人。保護者は四人でした。

一時間目は子ども大学かわごえ理事長・酒井一郎先生の授業があり、はじめに万葉集の特長についてお話がありました。

万葉集は七世紀後半から八世紀後半に編まれた日本最古の和歌集です。天皇、貴族から下級官人、防人(さきもり)まで、さまざまな身分の人たちがよんだ歌

を四五〇〇首以上集めたもので、成立は七五九年以後と見られます。万葉集の歌人には、持統天皇、天武天皇、大伴家持などがいますが、中でも大伴家持は万葉集の編集に力を入れました。

防人の歌は、九州を守るために家族と別れ別れになった人が、残した家族を思った歌や、旅立ちの歌です。

万葉集の和歌には音韻文と散文の二つがあります。音韻文は和歌、俳句、詩、神話のことです。リズムを付けたたり、高低をつけたりするようにしました。そ



して和歌(長歌短歌)の五・七・五・七・七が、万葉集の時代に生まれました。万葉集は、古墳、飛鳥奈良の

三つの時代につくられました。飛鳥時代には聖徳太子がいました。聖徳太子は何をした人か、酒井先生は学生に質問しました。憲法を定めたり、遣隋使を送ったり、法隆寺を建てたりするなど、たくさん意見が出て、一時間目が終わりました。

一時間目は、尚美学園大学講師の小林範子先生の授業がありました。万葉集の歴史ドラマをお話と音楽劇で学ぶ授業でした。子ども大学ジュニア合唱団と新聞部員がステージに上がり、万葉集の和歌を作った人になって歌を暗誦したり、小林先生が作曲した万葉集の和歌を歌ったりして、とてもわかりやすい授業でした。

学校で百人一首をしていて、同じような歌があり、不思議に思っ、家で聞いたら、万葉集がもとになって百人一首ができたことを知り、なるほどと思いました。(山口航記者 中央小6年、土田莉子記者 山田小5年)

初冠講座 林社長がいさつ
この授業はハヤシ海運株式会社社員の寄付による子ども大学かわごえ初の「冠講座」として行われました。ハヤシ海運は和歌山県海南市に本社があり、石油製品の海上荷役を主に行っている会社です。「子どもは未来を支える社会の宝」と位置づけ、社会貢献活動の一環として子ども大学かわごえを支援しています。授業の初めに林功社長がいさつをされました。

酒井一郎先生インタビュー

万葉の歌をよほせてください

Q なぜこのテーマにしたのですか?
A 日本人は日本のふるさとを知らなければいけないから。またそのことを学校で教わらないから。
Q 子どものころ、何にあこがれていましたか?
A 戦争中のときはゼロ戦のパイロット。トカナ。戦争が終わってからは医者になりたいと思いました。

Q 学生に一言お願いします。
A 万葉の歌をいくつでもいいから覚えてほしい。また、いろいろなことに興味を持ってほしいね。
(川村 弘希記者 中央小6年)

☆小林範子先生インタビュー

みんなで歌ったために作曲

Q 子どものころの夢は何でしたか?
A いろいろな職業のことを知りたくて、迷っていました。
Q 音楽家になりたいと思ったのは、いつころですか?

☆学生の授業感想

高階西小6年・新井小夏さん「今日の授業は新聞部の人や合唱団の人たちが和歌を読んでくれて楽しかったです。」
(新井穂花記者 高階西小4年)
仙波小5年・西形日菜乃さん「天皇の歌がたくさんあって、びっくりしました」
(増田夢美記者 名細小6年)

☆記者の授業感想

◇大和日菜記者 星野学園小5年
万葉集の歌を通して、歴史上の出来事をたくさん知ることが出来てよかったです。知ることが楽しかったです。そして万葉集の歌をつくった人が、必ずしもプロじゃないということに、おどろきました。歴史に残る歌は、身分に関係なく、すごい人の歌なんじゃないかと思っています。いまいましたから。